marketpress.jp
証券市場新聞
1　第232号
2020
6/8
月曜日
発行元　株式会社 証券市場新聞社
〒542-0081　大阪市中央区南船場3-7-27 NLC心斎橋ビル6C
TEL 06-6105-1904　FAX 06-7635-7861
marketpress.jp

日経平均株価
２万２８６３円７３銭
▲１６７円９９銭（前日比）
ＴＯＰＩＸ
１６１２．４８
▲８．６６（前日比）

株主総会シーズン到来

感染防止の鍵握る「バーチャル」型

全ての参加ニーズに対応

３月期決算発表が一巡して、６月中旬以降は株主総会が本格化する。新型コロナの感染拡大を受けて、発表延期や今期予想の非開示が相次ぎ、今回の決算発表では異例の動きになっているが、株主総会についても開催延期や入場制限に加えて「ハイブリッド型バーチャル株主総会」の実施に動く企業が相次いでいる。感染を防ぐにはリアル総会への出席者を少なくしてバーチャル総会への出席者を増やす必要がある。従来と大きく異なる総会が定着する過程でそれに取り組む企業が注目される。

株主総会は高齢者の株主が多数参加することから、今年の株主総会では多くの企業で前例のない対応に迫られている。ソーシャル・ディスタンスを確保するために、入場制限を行ったり、一般株主に出席を控えるよう要請している企業が出ている模様だが、アフターコロナ後の経営戦略に関心を高める株主は多く、全ての株主の参加ニーズを満たすべく、バーチャル株主総会の普及が不可欠になっている。

今年株主総会は感染防止策が悩みの種

バーチャル株主総会で先行しているのは米国で、バーチャルオンリーの総会を認める州が増加、一切認めていなかったニューヨーク州も３月２０日の知事命令で期間限定ながらバーチャルオンリーを認めている。日本に関してはリアル総会との並行開催になるが、バーチャルへの株主の参加誘導が感染防止に必要不可欠となる。

このような中で全ての上場企業を対象としたバーチャル株主総会運営サービスの提供を開始したのが**ウィルズ**（４４８２）。ブロックチェーン技術を活用して本人確認の担保・株主毎の認証を可能としている。**ブイキューブ**（３６８１）と**アステリア**（３８５３）は共同で「報告聴講」から「質問」、「議決権行使」をワンストップで実現するシステムを推進、**パイプドＨＤ**（３９１９）の傘下のパイプドビッツは「バーチャル株主総会ソリューション」の提供を開始している。

日経平均日足チャート

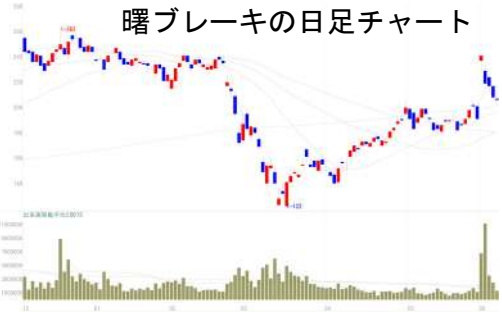
4月最終週からの動意銘柄

曙ブレーキがストップ高

今期17%営業増益を好感

週明け1日、**曙ブレーキ工業**（7238）がストップ高。同社は5月29日の取引終了後、20年3月期決算を発表、連結営業利益で37億700万円（前の期比17・2倍）と大幅な増益となったことが好感された。日本での固定費削減、北米での人員適正化・経費削減の効果が大きく寄与している。

曙ブレーキの日足チャート



半導体はSOX指数上昇

アドバンテスト（6857）、**東京エレクトロン**（8035）、**SCREENホールディングス**（7735）をはじめ半導体関連が大幅高。米株市場でフィラデルフィア半導体株指数（SOX指数）が前日比2・65%高と大幅に上昇したことで、東京市場にも関連株物色の流れが波及した。米株市場ではエヌビディアが4・58%高と急反発したほか、アドバンスト・マイクロやクアルコムなども3%超の上昇となった。

シルバーエッグS高

シルバーエッグ・テクノロジー（3961）がストップ高。21年12月期の第1四半期は連結営業利益で6000万円（前年同期比3・3倍）となった。アパレル業界や人材業界、並びにメディア業界（電子書籍）を中心に、既存顧客の売上が堅調に推移した。

システムソフ代理店契約

2日、**システムソフト**（7527）が急伸。子会社のDigiITが不動産業界向け自動化サービスを手掛けるシェアリングキーと「Selkey管理システム」の代理店契約を結び、販売を開始したと発表した。管理物件にシェアリングキーを取り付けることで、非対面で内覧、鍵の貸出しなどができるほか、物件の一括管理・運用が可能となり、業務効率向上、働き方の改善に貢献する。

デルタフライS高で新値

Delta-Fly Pharma（4598）がストップ高で年初来高値を更新。DFP-1432の第2相臨床試験で、全症例の病態制御に関する指標の病勢コントロール率が100%になったと発表した。第3相臨床試験は肺がん患者を対象にした比較試験を想定している。

リグアは業務提携

2日、**リグア**（7090）が一時ストップ高で上場来高値更新。東京・千葉を中心に80院以上の鍼灸接骨院を展開、同社の請求代行で約600院の接骨院と取引関係があるケイズグループと業務提携した。

anfac赤字へ修正

3日、**andfactory**（7035）が急落。2日の取引終了後、20年8月期の業績予想の修正を発表、営業損益で5億8000万円の黒字から2億4800万円の赤字（前期5億1200万円の黒字）へ修正した。宿泊業界全体の景況感悪化に伴いANDHOSTELとtabiiの宿泊領域における事業の影響が大きい。

正直じいさんの株で大判小判

ニイタカが連日の高値

5日の東京市場は朝安のあと戻す動きになりました。前日までに4日続伸していたことで短期的な過熱感が強く、利益確定売りが優勢でしたが、押し目買い意欲が強いようです。週明けは日経平均で2万3000円台回復に期待が高まりますが、多くの指標で過熱感が指摘されているだけに、慌てずに押し目待ちたいところです。

マクドナルドやテラなどが高値を更新しジャスダック平均は反発していますが、マザーズ指数は3日続落しており、中小型株は利益確定売りが優勢でした。ただ、これまでマザーズを牽引してきたアンジェスの押しも浅く、おむね底堅い動きで、引き続き利益確定売りをこなして出直ってくる強いトレンドの中小型株を狙っていきたいと考えています。推奨銘柄では**ニイタカ**（4465）が連日の高値追いとで、材料と業績が伴う銘柄は強気の対処です。

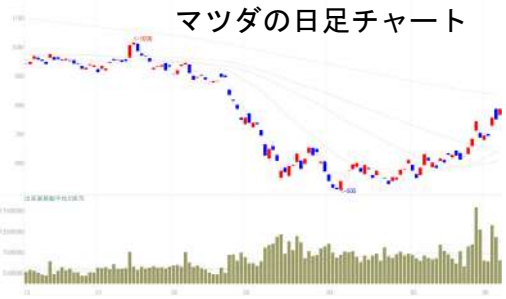
花咲 翁

自動車株軒並み高

5月米自動車販売回復を好感

3日、**マツダ**（7261）が急伸、値上がり率上位に買われた。2日に5月の米新車販売台数を発表、前年同月比1%減の2万4933台と4月の45%減から大幅に減少幅が縮小したことを好感した。4月の落ち込みから回復している**トヨタ自動車**（7203）や**ホンダ**（7267）、**SUBARU**（7270）の自動車株は軒並み高い。

マツダの日足チャート



シャノンはVキューブと提携

シャノン（3976）がストップ高。**ブイキューブ**（3681）と企業の効率的なオンラインセミナー開催を支援するサービス連携を開始したと発表した。ブイキューブのオンラインセミナーサービスと同社のセミナー管理システムを組み合わせ、開催準備からライブ配信、終了後の参加者フォローまで一連の業務効率化を支援、新サービスへの引合いと収益貢献を期待した買いを集めた。

転ばぬ先のテクニカル

今週はポジション整理を

先週の東京株式市場は5日連騰し3週続伸となりました。5月5週目の投資部門別売買状況を確認すると、海外勢は現物株を216億円売り越す一方で先物を4275億円買い越しています。5月4週目も先物を3120億円買い越しており、長期資金の流入は見られませんが、先物を中心とした短期筋の買い戻し需要が先週も続いたものと思われます。

騰落レシオや移動平均線乖離率など過熱指標が増加してきておりますが、足元は踏み上げ相場に突入しており、安易の空売りは避けたいところ。今週末のメジャーSQまでは売り方の買い戻しが想定されることから下がりづらい時間帯と思われます。問題はSQ通過後です。今期の配当が不透明なため期先へのロールオーバーが限られると思われ、需給均衡後の相場を見てから新たなポジションを作る作業が必要と思われます。

日々勇太朗

企業レター

テレワークに対応

大和ハウス工業

オリジナルワークスタイル提案

大和ハウス工業（1925）は新型コロナウイルス感染症拡大に伴いテレワークを採用する企業が急増するなか、快適に在宅勤務ができるオリジナルテレワークスタイル「快適ワークプレイス」と「つながりワークピット」の提案を開始した。

快適ワークプレイス

クローズド空間の「快適ワークプレイス」は外の音や情報セキュリティを気にせず、仕事に集中できる空間として、同社開発の快適防音室「奏でる家」の技術を採用した。セミクローズ空間の「つながりワークピット」は仕事と家事・子育てを効率よく両立させるためのリビングとつなげたマルチスペース。室内窓で家族の気配を感じながら、ドアの開閉でオンとオフを切り替えることができる。

いずれも室内の響きのバランスを整える独自の音響アイテム「コーナーチューン」を設け、クリアな音声でWeb会議に対応する。

レオパレス赤字拡大

4日、**レオパレス21**（8848）が急落。日本経済新聞社が「1千人規模の希望退職者を募ることが分かった」と報じた。20年3月期の連結最終損益は700億円を超える赤字（前の期686億円の赤字）だったようだとした。報道について会社側は連結最終損益は報道の700億円を超える803億円の赤字の見通しで「業績予想の修正はきょう公表する」と発表した。

藤久上方修正で黒字

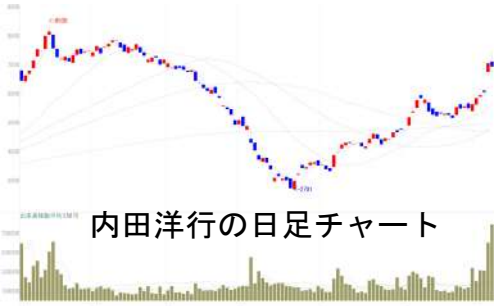
藤久（9966）がストップ高。20年6月期の業績予想について、売上高で185億2500万円から217億3600万円（前期比14・8%増）、営業損益で10億1800万円の赤字から5億3300万円の黒字（前期15億3500万円の赤字）へ上方修正した。マスク関連商材やミシンが大幅に増加した。

今週の動意銘柄

内田洋行、エスコS高

3Q利益急拡大し上振れ期待

4日、内田洋行（8057）とウチダエスコ（4699）が揃ってストップ高。内田洋行は20年7月期第3四半期累計の連結決算で、営業利益82億8000万円（前年同期比2・3倍）と利益が急拡大、通期予想を58億円から65億円（前期比70・4％増）へ引き上げた。ウチダエスコも同様に営業利益15億3900万円（同2・8倍）と急拡大した。教育ICT需要が収益を押し上げ、ともに3Qで通期計画を超過しており、一段の上振れを期待した買いを集めた。



内田洋行の日足チャート

空運を買い進む

週末5日、JAL（9201）とANAホールディングス（9202）の空運株が買い進まれた。4日のニューヨーク市場でアメリカン航空やボーイングの航空関連が買い進まれた流れが波及している。経済活動再開の動きからアメリカン航空が7月から増便が伝えられており、日本の空運2社も増便の動きが期待される。

不二電営業益2.8倍

不二電機工業（6654）が年初来高値更新。21年1月期の第1四半期決算は、営業利益8500万円（前年同期比2・8倍）と大幅な増益となった。新製品の鉄道車両用半自動ドアスイッチパネルの新規採用や補助スイッチが増加した。

ニイタカは7連騰

ニイタカ（4465）が7連騰でこの日も上場来高値更新。緊急事態宣言全面解除を受けて飲食店が営業を再開、食器洗浄剤メンテナンスサービスや衛生管理支援サービスへの受託が拡大している。食品製造現場での安全対策がより重要性を増すなか、ニーズはさらに強まっている。

購読会員募集中！

証券市場新聞では、購読会員を募集しています。

値幅取り候補銘柄！！

【正直じいさんの株で大判小判】でお馴染みの花咲　翁氏が
独自の分析で値幅取り候補銘柄を紹介します。

https://marketpress.jp/kabu-takano/

証券市場新聞 公式メールマガジン

優良銘柄に加えて新興銘柄のタイムリーな限定情報が満載！

https://www.mag2.com/m/0001678061.html

marketpress 証券市場新聞

潮流

買戻しのサイクル続く!!

リードしたのは個人投資家とETF

marKet bAnk

コロナ禍で歴史的な経済危機の状況の中、再燃する米中貿易問題や全米での人種差別への抗議デモが続いているにもかかわらず、日米の株式市場の上昇が続く。大規模な経済対策で財政支出が拡大し、潤沢な資金が市場に向うことで過剰流動性が高まっている。２月に暴落した株式市場において積み上がった売り残高が解消に向うことで発生する買い戻しが今の株高を引き起こしている。

コロナショックで売りを仕掛けたのは外国人投資家だ。しかし、大底を打って上昇転換してから相場をリードしたのは外人ではなく、個人投資家とＥＴＦだ。外人は３月に現物株を２兆２０００億円売り越した。逆に個人は１兆５００億円買い越しだ。４月も外人は現物株を８１００億円売り越した。５月に入っても外国人は第２週まで現物を２５００億円売り越したが、個人は現物を８６００億円買い越している。

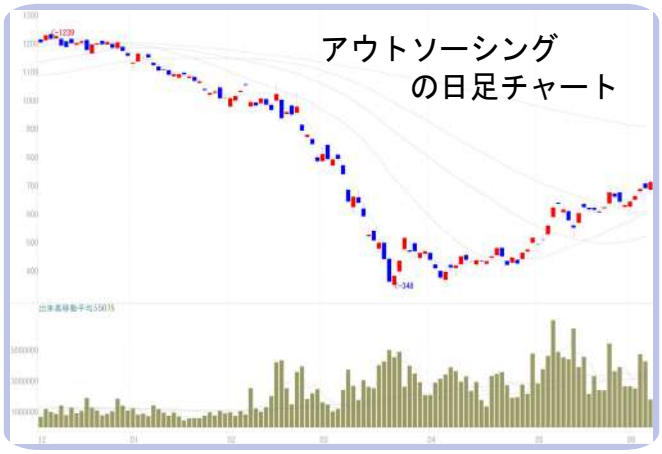
外人は５月第２週まで、１４週連続で累計約８兆円（現物・先物合計）の日本株を売り越す一方、日銀はこの間４兆円弱のＥＴＦを買い、個人も約２兆円買い越した。

外人は５月第３週目になってようやく現物と先物を買い越しに転じた。逆に個人投資家は現物を１０００億円売り越した。５月第４週に外人は先物を４０５８億円買い越した。現物は２１７億円売り越しだ。個人は現物と先物の合計で３３０５億円売り越している。

つまり、外人が買い越しに転じたのは、日経平均が２万円台に乗せてからである。本格的に買いを入れ始めたのは２万１０００円台に乗せてからだ。買いの主体は先物である。逆張り志向の強い個人投資家は２万１０００円台乗せからは売り超しだ。外人による先物買いが続き、日経平均がさらに上昇すると、今度は個人が買戻しを迫られることになる。

米国では主要株価指数のなかでも最も流動性の高い「Ｅミニ・Ｓ＆Ｐ５００種株価指数先物」の投機筋の建玉は５月２６日時点で３０万４９枚の売り越しと、２０１１年１１月以来の高水準にある。同指数だけで２９０億ドル（約３兆１０００億円）の買い戻しが発生する計算だ。こうした売り建玉の大半で含み損を抱えており、指数が少しでも下落すると損失覚悟の買い戻しが入り、悪材料が出ても株は下げるところがむしろ上昇する。

潮流銘柄は**アウトソーシング**（２４２７）、**川本産業**（３６０４）、**ビープラッツ**（４３８１）。



岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク 代表取締役）のプロフィール

１９９９年２月日本初の資産運用コンテスト「第一回Ｓ１グランプリ」にて約１万人の参加者の中から優勝。直近では２０１７年１月に始まった夕刊フジ主催の「株・１グランプリ」において優勝。１カ月間における３銘柄の合計パフォーマンスでは１５５％と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

下がれば損失覚悟の買戻し

チャートから読む騰落銘柄

ホロン（7748）

５月１２日高値７３４０円から急落し５０日割れまで売られたが、その後は落ち着く動き。前３月期７７．８％営業増益の反動から今期大幅減益予想ながら、半導体投資回復なら業績上ブレから株価も出直りへ。

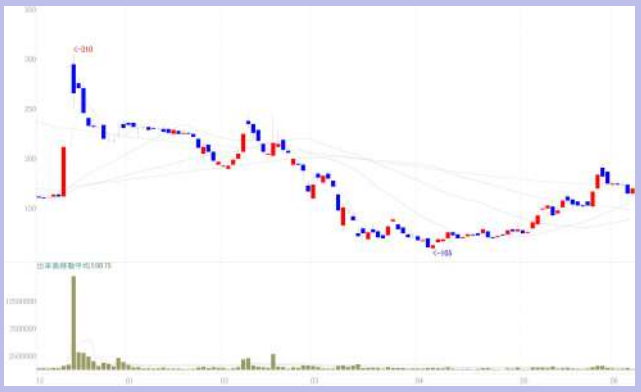
エムスリー（2413）

２５日線割れから切り返し、上値追い再開。国内最大級の医療従事者専門サイトを起点に新型コロナオンライン診療にも対応する。業績拡大期待に加え、買戻しも株価を押し上げ、青空相場を一段高へ。

オリックス（8591）

１１００円台を底に５月２８日には７５日線を上抜き１５０２．５円まで買われるも、その後は上値が重くなる。３９７万株超の買い残も重石で、航空機リースや不動産運営での不透明感から業績不安も継続。

大塚家具（8186）



５月２８日のザラ場高値１９４円で戻りいっぱい。２６週線と週足一目均衡表雲下限に跳ね返され下落に転じる。経営再建は進まず、積み上がった信用買い残も重荷で、当面２５日線近辺の１５５円が下値のメド。

※チャートは日足

今週の活躍期待銘柄

ナガオカ（6239）

通期72％増益も3Qで超過

ナガオカ（6239）の株価は5月15日の769円を底にジリジリと出直りに転じてきた。75日線突破から目先は5月11日の高値1029円抜けを期待したい。

石油精製・石油化学プラント用の内部装置や取水用スクリーン、水処理装置の製造などを展開。20年6月期は第3四半期累計（19年7月～20年3月）の営業利益で8億7300万円（前年同期比87・2％増）と大幅な増収増益を達成、通期予想の8億4800万円（前期比71・5％増）を超過しており、上方修正へ進む可能性が高い。プラスチック原料であるプロピレンの世界的な需要増に絡んで同社はプロピレン・プラントに絡むスクリーン・インターナルの大口受注を獲得している。納期が21年4月であることから来期も大幅増益への期待が高まる。（と）

来期は大口受注が収益寄与

イノベーション（3970）

コロナ対策事業で急成長続く

イノベーション（3970）は年初来高値圏での保ち合いを上放れ、実質最高値466 5円奪回に向けてきた。

ウィズ・コロナ関連に位置づけられる小型成長株で、IT製品の比較・資料請求サイト「ITトレンド」にはテレワーク領域の検索から来訪が急増、子会社のコクリポはウェブセミナー専用ツール「コクリポウェビナー」の初期費用と利用開始1カ月の無償提供により、ユーザーを急速に広げている。オンラインメディア事業の拡大とかねてから取り組んできた収益構造改善策の効果が表面化、足元の収益も急拡大しており、20年3月期は連結営業利益1億7700万円（前の期比11・0倍）で着地した。21年3月期計画の1億7000万円～2億1000万円（前期比2・6％減～20・3％減）は、あくまで最低ラインだろう。（さ）

テレワークとオンラインセミナー

※チャートは日足

荒れそうな6月SQ週

先物の仕掛け売りには注意

敏腕先物ディーラー

ハチロクの裏話

ハチロクのプロフィール

証券アナリストから証券会社の法人部長を経て、２２５先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における２２５先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

先週の日経平均は２０１９年１０月以来の５連騰で週間で約９８５円の上昇となった。週足でも３週連続陽線となり、期間上昇幅は約２８２６円（約１４％）とまさに株式市場は「コロナバブル」状態となっている。

２万３０００円に近付くと売りが出て急速に値を消すが、昼からは買われるといったパターンで相場の強さを感じさせられた。第１次、第２次と合わせて補正予算は約２００兆円組まれており、これはリーマンショック時の約４倍、形振り構わない対策が相場の戻りを下支えしている。

欧米に比べ死亡率が極端に少ないことに対する評価か、もしくは売られ過ぎの日本株の反動かはわからないが、戻りは欧米に比べ若干早い

ＳＱ週は荒い値動きも

い出させる今の相場だが、やはり騰落レシオが１５０％とかＲＳＩの９２％、ストキャストの９６％の状態を見ると今週は波乱の展開となりそうである。

特に今週はメジャーＳＱである。３月のＳＱの時はプレミアム１円のプットが２４０円まで上昇したが、今回はプレミアム１円だったコールが１９０円まで上昇してきている。今週は前半でコールの売り方の先物ヘッジ買いを誘発してその後、水曜日、木曜日で今度はプットのプレミアムの上昇を狙った先物の仕掛け売りが入る可能性も十分に考えられるので、今週は十分注意が必要である。

上値メドとしては週足窓埋めの２万３１３３円６０銭、コロナ下落が始まった２月２１日の安値（２万３３７８円３３銭）、節目の２万３５００円、コロナ下落の全値戻りの２万３８０６円５６銭が上げられよう。下値メドは一目均衡表の週足雲の上限の２万２６８７円処、５日線の２万２５１２円処、転換線（２万１９１３円処）が上げられよう。目先は５日線を割ってくると売りは加速すると思われるので注意したい。

（ハチロク）

日経225先物日足チャート

星野三太郎の株街往来

～テレワークの限界～

緊急事態宣言の全面解除を受けて、ようやく大阪市内にもビジネスマンが戻り始めてきた。この数カ月は取材先の大手企業も出社を自粛しており、正面玄関を閉めている企業も少なからず存在したが、親しい企業担当者からは「通常勤務に戻したので取材にこないか？」との連絡も頂いた。

ニュース番組やワイドショーでは、経済活動が再開してもテレワークは定着するとの見方が多いが、実際には「子供が邪魔して仕事に集中できない」とか「電気代が上がった」、「書斎がないので、キッチンの椅子で仕事をしていたら腰を痛めた」とか様々な問題を指摘する社員が多いそうだ。電気代とか自宅で発生する仕事のコストは何らかの形で会社側が負担すればいいだろうが、結局のところは職場と住居を分けたほうが、多少、通勤時間を割いても業務効率が上がるという結論になるのだろうか。

自粛期間中は採用面接をオンラインで行っていた企業も存在した。内定通知後、自粛期間が明けて初出社日に直接会って見ると、イメージがかなり変わったと語る採用担当者もいた。コロナ後の新しい経済活動も行き過ぎると様々な弊害がでる。

企業レター

国内メーカー初の試み

石塚硝子

食器シェアリングサービス開始

石塚硝子（5204）は国内食器メーカーとして初めての試みである食器シェアリングサービス「EPOCH TABLE（エポック テーブル）」を関東圏の約400名を対象に7月上旬から開始することになった。

EPOCH TABLE

「エポック テーブル」は記念日やホームパーティーなど特別な日はもちろん、日々の食卓にプロのスタイリストがコーディネートしたテーブルウェアを真似るだけで簡単にラグジュアリーなセッティングを可能にするサービス。

パーティーや記念日、料理教室など用途に合わせて、専用スマートフォン向けアプリや専用サイトから必要人数と食器を選択するだけで気軽にレンタルし、自宅に届ける。

キリン堂HD

店舗スタッフが協力

矢井田瞳さん製作応援ソング

キリン堂ホールディングス（3199）の中核子会社キリン堂は、シンガーソングライターの矢井田瞳さんが新型コロナウイルスに立ち向かう人たちを歌の力で応援するため制作したオリジナル曲のミュージックビデオ撮影に協力した。

「#コロナの先で希望のSTORY～歌の力～」をテーマに最前線で闘う医療従事者をはじめ、スーパーや宅配、公共交通機関、保育所など感染リスクと隣り合わせの現場で社会を支えてくれている人たちへのエールや感謝のメッセージを産経新聞社が読者から集め、その応援メッセージを活かした矢井田瞳さんの新曲「あなたのSTORY」が発表。そのミュージックビデオに、エッセンシャルワーカーのひとりとして、キリン堂のドラッグストアの店舗スタッフが出演している。

ミュージックビデオに出演したキリン堂スタッフ

記者の視点

相場見通し

メジャーSQを注視

一旦過熱感冷めるのを待つ

6月第1週の東京市場は騰勢を強め、日経平均では4日に一時2万2907円92銭を付け、2月21日以来の2万3000円台回復に迫る場面があった。

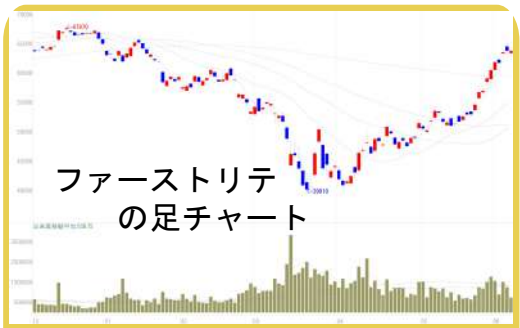
世界的な経済再開に対する期待が下支えとなり、個人投資家買いが活発化していたが、これに外資系証券を中心とした買い戻しが指数上昇に拍車をかけた。5月下旬以降は225先物でクレディ・スイス証券とゴールドマン・サックス証券の買い越しが目立っているが、第2週の週末となる12日にはメジャーSQを迎えることから、これら外資系が先物でどのようなポジションを取るかが注視される。

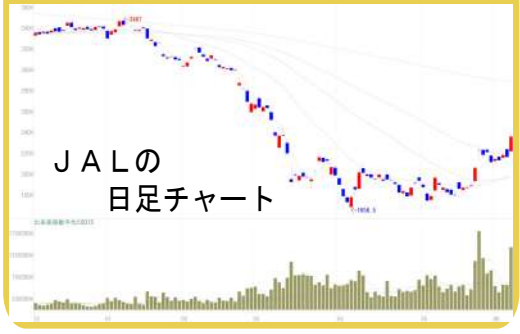
この数週間は指数主導で上昇が急ピッチなうえ、TOPIXに関しては2000日線突破後に上値が重くなり、NT倍率は14倍台と3月上旬以来の水準になっている。日米欧を含めて手段を選ばない金融政策から大きな調整はないと見るが、目先的には過熱感が冷めるのを待ちたいところだ。

イベント的には10日まで米FOMCが開催され、10日にパウエル議長の経済見通しが発表される。同じく10日は中国5月生産者物価や中国5月消費者物価も控えており、これら指標やイベントにマーケットが反応する可能性がある。

主要銘柄では**ファーストリテイリング**（9983）が1月中旬以来の水準まで戻しており、指数と連動して過熱感が強まっている。

一方、5日週末は**JAL**（9201）と**ANA**（9202）の空運が買われた。政府は外国人の入国制限を巡り、タイ、ベトナム、オーストラリア、ニュージーランドの4カ国を軸に緩和する方向で検討に入っており、これが実現すれば更なる買い戻しが期待される。





今週のスケジュール

- 5日　米5月雇用統計(21:30)
- 7日　中国5月貿易収支
- 8日　1-3月期GDP確報値(8:50)
  5月景気ウォッチャー調査
- 9日　5月マネーストック(8:50)
  5月工作機械受注(15:00)
  FOMC(～10日)
- 10日　5月国内企業物価指数、4月機械受注(8:50)
  中国5月生産者物価、中国5月消費者物価(10:30)
  パウエルFRB議長会見(経済見通し発表)
  米5月消費者物価(21:30)
- 11日　4-6月期景気予測調査(8:50)
  米5月生産者物価(21:30)
- 12日　メジャーSQ算出日

編集後記

中国政府は香港を対象とする国家安全法の制定を決めた。国際社会の批判を浴びながら法整備を急ぐのは、香港をコントロールできず、民主化運動が全土に広がることを避けたいからだ。ただ、弊害は大きい。米トランプ大統領は香港への優遇措置撤廃にとどまらず、中国への制裁も示唆しており、ドル・ペッグ（連動）制に見直しが及ぶようなら、香港は国際金融センターの地位を失い経済繁栄も消える。

米中対立で日本は漁夫の利を得る立場にあり、香港情勢と東京市場への影響を注視していきたいと思う。

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測の的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被られたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。